

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

鎌倉幕府第3代将軍で和歌の名手の源実朝は、山々や街路を彩っていた紅葉が終わった季節特有のはかなさを「秋は去ぬ 風に木の葉は散りはてて 山寂

しかる冬は来にけり」と詠んだが、今年は早い降雪で紅葉を楽しむ事ができないと感じていたが、きょうから12月。師僧がお経を上げるために東西に馳せるといふ意味の「師馳す」を語源とする「師走」だ。最後まで頑張って、気持ちよく新年につなげたいと考えている人は多いはずだ。

俳人・八木久江さんが「余白すく消ゆる師走の予定表」と詠み、あつという間に過ぎ去る時間だが、医師の和田秀樹さんの著書「幸齢者」に、70歳を超えて楽しく、充実した暮

高齢者の呼び名が本当に適しているか疑問だ

らしを送っている人を高齢者ではなく幸齢者と呼び方を愛えれば、高齢化社会でももっと明るく、皆が笑顔に、心豊かになれると提唱している。当時の厚生省が50・60歳代を高齢者扱いにするのはおか

しいと新しい呼び方を公算したところ「人生で最も充実する爽りの時」という意味を込め「爽年」としたが定着とはならなかった。米漫画家チャールズ・シユルツさんが描くマンガ「ピーナツ

ツ」に登場するスノーピーを知る人も多いはずだ。スノーピーの飼主チャリー・ブラウンさんの一言「このまったく平凡な日が、ぼくの一生のうちで一番重要な日になるかも

しかないと思うと無駄にはできない」と。チャリーの妹のサリーは「最善の生き方は一度に一日ずつ生きること」。翻訳を手

は、多くの人の生き方に影響を与えたいと連日。知人の加藤和郎さんから毎日届く情報。ぜひ多くの人に伝えたくて紹介する。一遍上人の生き方に共感した仏教詩人・坂村真民の「7字のうた」よわねをほくな くよくよするな なきごというなうしろをむくなひ

とつをねがい ひとつをしとげ はなをさかせよ よいみをむすべすずめはずすめ やなぎはやなぎ まつにまつかせ ばらにはらのか「目だけでなく、口を動かして声に出して読むと、唇と舌の運動



になると。感謝の言葉「ありがとう」は、漢字で「有難う」それは「困難を与えられ、それを乗り切ることによって実力が付くから」。日々生きる糧になる情報に感謝だ。

11月中旬の降雪で野沢菜が折れるなどの被害が。こんな時だからこそお湯で洗うとおいしくなるとの教えがある.....
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)